

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2013.2.28
第11号



野呂氏館跡出土常滑産甕

野呂氏館跡

野呂氏館跡は、現在の芸濃町椋本の西部、安濃川左岸中流の河岸段丘上に位置します。

城館は、約40m四方の短郭方形城館で、南側は自然の断崖で比高差は約10m、西側には自然の谷と幅8mの内堀があり、東側には幅約5mの土塁と幅10m、深さ約5mの空堀が、北側には二重の土塁と堀があり、この城館の防御施設としています。城館からは、安濃川対岸の下川遺跡が望め、南西方向には、雲林院城跡が存在します。

昭和58年、町道建設等に伴い、主郭の北西隅と土塁、空堀の約2,600㎡の範囲で発掘調査が実施されました。調査の結果、1間×3間以上の礎石建物1棟を検出し、その南側には建物に沿うように径約1mの深鉢型の土坑が4個連続し、内部には大型の常滑甕が据えられていました。建物の西側では、2基の蒸風呂と考えられる遺構が検出され、その1つは2.3m×1.8mの方形の施設で、地山を掘り窪め焚口を北側に配した石組の燃焼室を形成し、その上には約20～30cmの河原石を敷き詰め、その四隅にやや大きな扁平な石が配され、それを礎石とした覆屋を伴うものであったと考えられます。その他に、蒸風呂施設の南側では4.5m×3.5mの方形の石組土坑とその南側には直径1.2mの円形素掘の井戸があり、約4mの深さでほぼ垂直に掘られています。

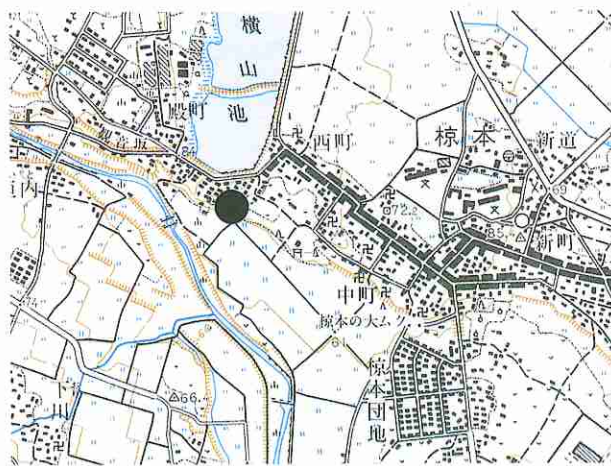


出土遺物

井戸の上端面には20～30cmの河原石が環状に二重に縁取り補強されていました。

出土遺物には、土師器皿、羽釜、内耳鍋、山茶碗、天目茶碗、染付碗、常滑甕などがあり、特に、直径約24cm、器高約3cmの土師器の大皿が遺跡内から5枚、いずれも完形若しくは割れの少ない良好な状態で出土しました。

野呂氏は、『勢州軍記』などから長野工藤氏の分家である雲林院氏の重臣でしたが、織田信包の策略により天正8年（1580）に滅ぼされたと伝えられていますが、資料に乏しく詳細は不明です。しかし、この調査で出土した常滑甕や天目茶碗の編年から16世紀中頃以後のものと考えられ、野呂氏が滅亡したと伝わる時期とほぼ符合します。（油田秀紀）



位置図（国土地理院『椋本』1：25,000）



調査区全景（北から）

寄贈資料紹介⑤

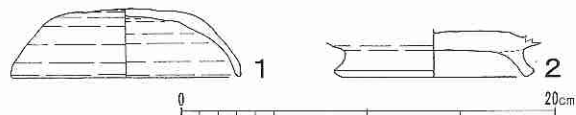
河芸町三行地内出土の須恵器

以前市民の方から寄贈いただいた、河芸町^{かわげ}三行地内^{みゆき}から出土した飛鳥時代の須恵器を紹介いたします。

これらの須恵器は、出土したときの状況など詳細については明らかではないものの、いずれも中勢用水大谷池の西側の周回路で採集されたもので、池の建設工事の際に出土したものとみられます。5点の寄贈資料のうち、最も大きな破片である坏蓋(1)は、大きく焼け歪んでおり、これらの破片が窯跡から出土した可能性が高いことを物語っています。

ところで、河芸町の北部から鈴鹿市の南部にかけての東西約4km、南北約2kmの広大な範囲の中には、40基あまりの須恵器の窯跡が分布しており、「徳居窯跡群」とよばれています。県内最大の窯跡群であり、古墳時代後期から奈良時代までの長期にわたって操業されたことが知られているものの、実態は必ずしも明らかではありません。

周辺の遺跡を見ると、古墳時代から奈良時



遺物実測図(1:4)



河芸町三行出土の須恵器

代の集落である鈴鹿市の郡山遺跡群では、須恵器の焼成不良品が数多く出土し、集落内で須恵器の選別を行っていた可能性が高く、集荷場が存在したと考えられます。また河芸町の千里ヶ丘遺跡では粘土貯蔵坑が検出されるなど、工房を含む須恵器工人の集落と考えられており、これらの集落が徳居窯跡群に深く関与していることが指摘されています。

過去の記録によれば、中勢用水大谷池西側の字柿谷地内において窯跡が存在したとの記述があります。詳細については不明ですが、今回の寄贈資料との関連がうかがえ、この地域の歴史を考えるうえで貴重な資料となりました。(村木一弥)



位置図(国土地理院『白子』1:25,000)



土器出土地周辺地形図(1:6,000)

埋文センター日誌抄

- 4月13日《見学》神戸小学校 50名
- 4月25日《掲載》藤谷窯跡群出土陶棺写真(個人)
- 5月7日《見学》一身田小学校 149名
- 5月10日《普及》出張講座 大井小学校
- 5月15日《掲載》風呂谷銅鐸図写真2点(個人)
- 5月18日《普及》出張講座 櫛形小学校
- 5月21日《閲覧》薬師谷14号墳出土水晶製三輪玉・水晶原石、ヒジリ谷26号墳出土水晶製勾玉(個人)
- 5月31日《見学》西郊中学校 143名
- 6月1日《掲載》北畠氏館跡等写真3点(サンライズ出版(株)『三重の山城ベスト50を歩く』)
- 7月10日《貸出》柳谷遺跡出土双口壺(9月6日まで、鈴鹿市考古博物館「何が入っていたのかな?—弥生土器大集合—」展)
- 8月3日《見学》ビデオ写真愛好会 9名(久居分室)
- 8月17日《閲覧》高茶屋銅鐸(個人)
- 8月20日《掲載》山王遺跡全景写真等2点(東海農政局木曾川水系土地改良調査管理事務所ホームページ<中勢用水関係>)
- 8月24日《掲載》多気北畠氏遺跡第35次発掘調査現地説明会資料(株)ジャパン通信情報センター『文化財発掘出土情報』2012年11月号)
- 9月6日《貸出》鎌切3号墳銀装振環頭大刀・馬具・出土状況写真、薬師谷14号墳馬具・出土状況写真((財)元興寺文化財研究所平成24年度秋季特別展「文化財の保存・修復の半世紀」)
- 9月18日《掲載》多気北畠氏遺跡出土土製文様型集合写真、多気北畠氏遺跡第30次出土熔解容器写真・顕微鏡写真(山梨県立博物館「黄金の国々」展)
- 9月19日《見学》豊ヶ丘西自治会 13名(久居分室)
- 10月4日《掲載》明合古墳航空写真(三重テレビ)
- 10月4日《閲覧》大城遺跡出土刻書土器(名古屋博物館、展覧会の資料調査)
- 10月5日《見学》歴史ウォーク 13名(久居分室)
- 10月14日《見学》津市歴史健康ウォーク 200名(久居分室)
- 10月16日《閲覧》北畠氏館跡出土鉄製錠前(大分市教育委員会)
- 10月30日《見学》旧久居市お母さんの勉強室 13名(久居分室)
- 11月2日《貸出》旧津市都市計画図(昭和61年)ほか5件(三重県立博物館、安濃津湊の製作にかかる検討資料として)
- 11月19日《見学》三重県建設労働組合 11名(久居分室)

編集後記

日々現場に出ていると季節の変化を敏感に感じるものですが、今年度は特に夏から冬にかけての変化が急激であったように感じます。

今回は寄贈資料の紹介をさせていただきました。末筆ではありますが、厚くお礼申し上げますとともに、今後有効に活用させていただきます。(編集子)

発行日：平成25年2月28日

編集発行：津市埋蔵文化財センター
〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：共立印刷株式会社